



にわ ロサリンドの庭

ベスコフ作 うえがきあゆこ 植垣歩子絵 ひしきあきらこ 菱木晃子訳 しょぼう あすなる書房

ラーシュ・エリックは病気がちな六歳の男の子。いつもひとりぼっちで寝ているので、壁紙の花や小鳥のまぶさをながめることだけが、ただひとつのなぐさめでした。ある日、壁に小さなドアがあらわれ、壁紙とおなじもようのワンピースを着た女の子、ロサリンドがでてきました。ふたりで毎日あそぶうち、元気になるっていったラーシュ・エリックは、壁紙のドアのなかのロサリンドの庭でもあそぶようになります。ところが、ラーシュ・エリックの家がとりこわされることになり…。

